

平成30年度

第1回「在宅医療・介護連携における多職種研修会」を開催しました

2018年6月21日（木）18:00～19:30 苫小牧市医師会館講堂にて多職種研修会が開催されました。

参加者数は154名で、内訳は、看護師（35%）、介護支援専門員（22%）、リハビリ職（13%）、薬剤師（7%）、歯科医師（6%）、ソーシャルワーカー（4%）他、計13専門職種の参加がありました。

「事例を通して介護保険・福祉制度を理解しよう」というテーマで苫小牧ケアマネージャー連絡会会長の及川治晃氏による講義、機関紹介として、苫小牧ひばり緩和ケアクリニック蓮池史画先生の紹介、グループワークでは、課題整理総括表を活用して脳梗塞の方の退院に向けてのケアプラン作成実習を行いました。



講義:「事例を通して介護保険・福祉制度を理解しよう」
苫小牧ケアマネージャー連絡会会長 及川治晃氏



機関紹介: 苫小牧ひばり緩和ケアクリニック 蓮池史画先生



グループワーク: 課題整理総括表を活用して退院に向けてのケアプラン作成をしてみよう

研修会終了後のアンケートでは沢山のご意見をいただきました。一部紹介させていただきます。

- ✓ 実際に課題分析の実習をしてみたら、ご本人の症状、生活等すべての面について、つぶさに所見を取り分析しなければならないということを改めて知らされた。(歯科医師)
- ✓ 他の職種の方の意見を聞くことができ、違う視点でみることができた。(薬剤師)
- ✓ 他職種のアセスメント方法や考え方をすることでより円滑なコミュニケーションがとれると感じた。(リハビリ職員)
- ✓ 地域で支える事を行うために更に知識と情報を持つていく必要性を感じた。(病院看護師)
- ✓ スムーズな連携ができるように研修を通して様々な職種と顔合わせをしていきたい。(介護支援専門員)
- ✓ 多職種での連携の大切さをはじめて感じた。連携を取れる役割を行っていきたいと思った。(職不明)
- ✓ 事例を通した多職種でのグループワークが今後もあればよいと思う。(作業療法士)

その他、多数の参加者から「グループワークの時間をもっと多くしてほしい」「多職種での事例によるグループワークの継続をしてほしい」との意見がありました。

参加者からの意見を受けて、平成 30 年 9 月に在宅緩和ケアを必要とする方の支援をテーマに多職種研修会を予定しています。